

◇馬蹄寺徳本行者六字名号供養塔（所在地／上尾市大字平方 2088 番地）

徳本は紀州生まれの念仏行者で、郷里付近で木食戒を受けて、後に増上寺の支援を得て江戸に入った。その平易な念仏信仰は広く受け入れられて各地に講が結ばれ、その筆跡の六字名号を刻んだ供養塔が各地に造立されている。

当該供養塔の形状は、円頭角柱型で二重基壇を据えて基礎を置き、塔身を立てる。角柱の正面に独特の字体で「南無阿弥陀仏」と陰刻し、その下に「徳本（花押）」とあることから、馬蹄寺を中心に結んだ念仏講により造立されたものと思われる。紀年銘の文化十四年十一月は、「徳本行者全集」にみられる「文化十四年十一月十一日、平方の馬蹄寺におみて齋を致し」と符合する。

法量（センチ）

総高	212.5		
下層基壇高	25.0	幅 118.5	奥行 111.0
上層基壇高	32.0	幅 88.5	奥行 83.5
基礎高	32.0	幅 63.5	奥行 60.2
塔身高	136.5	幅 37.5	奥行 27.0

